

に委ねられてあるのは遺憾であるから、先づ之が闡明に從事しなければならぬといふのであつた。我が東洋學を振興して、世界學界の水準、否その以上に發達せしめなければならぬといふのは、夙くから博士の念願とせられたところで、此の頃から後四十年に近い生涯を通じて自から斯學の研究に勇往邁進せられたことは更めていふまでもなく、常に後進を誘導鼓舞してこれが達成に不斷の努力を用ゐられたものである。かゝる意圖の下に講壇に立たれた爲か、右の題目を掲げられたに拘はらず、その内容は頗る多岐に亘り、此等諸民族の史實を概括的に講述せられたのでは無く、却つてこれに緣故のある諸種の問題に關して古今の學說を汎く取り上げ、その紹介批評及び獨自の見解を明快に且つ非常な熱意を込めて披瀝せられ、聽講者に對して研究の興味を呼び起すと共に、その方法を教示せられる行き方であつた。茲に於てか動もすれば平板な記述的講授に墮する東洋史の講義が、深遠なる研究の發表として、また研究に進むべき道しるべとして授けられ、學生をして甚大の興味と尊敬とを以て聽講するに至らしめ、この後の斯學の發達の上に大なる影響を及ぼすこととなつた。我が國現在の東洋史學の隆昌については、博士と共に四五同列先達の貢獻を牢記しなければならないにしても、博士によつて逸早く開拓の鍵の振上げられた功績は、永く稱へられねばならぬことである。

尤も講義の内容は隨分六つかしく、問題そのものゝ重要さも沿革も知らない學生に對して、何の頓着もなしにクラプロートやレミニュザー以下現代に及ぶ大家の所説を、滔々として紹介批評せられるので、少からず面喰つて茫然たることも屢々であったが、それに拘はらず聽講者はその熱意と新味とに惹きつけられ、教室はいつも満員をつゞけ、時たま掲示板に本日休講が貼り出されると、柄にもなくがつかりして引上げる有様であつた。